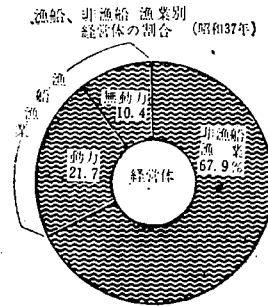


### 32. 漁業経営体数

352 キロメートルの海岸線をもつ本県は農業とならび漁業の盛んな県である。昭和37年の漁業経営体数は 15,667 を数える、しかしその数は年々減少している。このことは沿岸漁業の不振と内湾の埋立による漁場放棄によるものである。経営体を組織別にみるとほとんどが個人経営による小規模なものであり、また68%が非漁船漁業である。なお、漁業種類別では67%を浅海養殖業が占め、ついで釣、延縄漁業、採貝、採藻の順となっている。



年	経営体 総数	組織別経営体数						
		個人	会社	漁業協同 組合直営	漁業生産 組合	共同経営	官公庁学 校試験場	
昭和 29 年	15 356	14 872	51		428		5	
33	16 310	15 972	122	18	9	186	3	
35	16 589	16 242	121	21	12	190	3	
36	16 008	15 653	122	25	11	194	3	
37	15 667	15 438	114	26	10	76	3	
		漁船漁業経営体数			漁業種類別経営体数			
		漁船漁業		非漁船 漁業	捕鯨業	底びき網	まき網	敷網
		無動力	動力					
昭和 29 年	3 262	3 020	9 074	...	...	...	...	
33	2 789	3 699	9 822	2	587	131	138	
35	2 393	3 390	10 806	2	465	132	136	
36	2 029	3 379	10 600	2	424	129	87	
37	1 636	3 395	10 636	2	408	115	82	
		漁業種類別経営体数						内水面 漁業
		刺網	釣延縄	大型小型 定置網	地びき 船びき網	採貝 採藻	その他の 漁業	
昭和 29 年	...	...	38	...	...	8 870	...	
33	950	2 394	40	133	2 257	9 678	...	
35	1 045	2 111	26	68	1 606	10 712	...	
36	1 022	2 092	29	57	1 441	10 513	...	
37	962	1 976	28	42	1 306	10 566	37	

統計課調，農林省千葉統計調査事務所調 注) 昭和29年「第二次漁業センサス」33年「沿岸漁業センサス」35～37年「漁業動態調査」による。